

| 今月の経済動向 (平成30年9月)

● 月例経済報告 (9/14)

<p>基調判断</p>	<p>(9月) 景気は、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。また、相次いでいる自然災害の経済に与える影響に十分留意する必要がある。</p> <p>(8月) 景気は、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>	
<p>個人消費</p>	<p>(9月) 持ち直している。</p> <p>(8月) 持ち直している。</p>	<p>消費総合指数と実質総雇用者所得</p>
<p>設備投資</p>	<p>(9月) 増加している。</p> <p>(8月) 緩やかに増加している。</p>	<p>製造業・非製造業の設備投資 (実質)</p>
<p>住宅建設</p>	<p>(9月) おおむね横ばいとなっている。</p> <p>(8月) おおむね横ばいとなっている。</p>	<p>住宅着工戸数 (季節調整値)</p>
<p>雇用情勢</p>	<p>(9月) 着実に改善している。</p> <p>(8月) 着実に改善している。</p>	<p>雇用者数、就業者数の推移</p>

<p>生産</p>	<p>(9月) 緩やかに増加している。</p> <p>(8月) 緩やかに増加している。</p>	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移</p>																								
<p>輸出</p>	<p>(9月) このところ持ち直しの動きに足踏みがみられる。</p> <p>(8月) このところ持ち直しの動きに足踏みがみられる。</p>	<p>地域別輸出入数量指数 ①輸出</p> <table border="1" data-bbox="1228 638 1348 862"> <tr> <td>EU</td> <td>7月</td> <td>+0.9%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>▲2.5%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>7月</td> <td>+0.7%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>▲0.4%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>7月</td> <td>▲1.5%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>▲1.7%</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>7月</td> <td>▲1.4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>▲3.0%</td> </tr> </table>	EU	7月	+0.9%		3MA	▲2.5%	アジア	7月	+0.7%		3MA	▲0.4%	全体	7月	▲1.5%		3MA	▲1.7%	アメリカ	7月	▲1.4%		3MA	▲3.0%
EU	7月	+0.9%																								
	3MA	▲2.5%																								
アジア	7月	+0.7%																								
	3MA	▲0.4%																								
全体	7月	▲1.5%																								
	3MA	▲1.7%																								
アメリカ	7月	▲1.4%																								
	3MA	▲3.0%																								
<p>国内企業物価</p>	<p>(9月) 緩やかに上昇している。</p> <p>(8月) 緩やかに上昇している。</p>	<p>企業物価の推移</p>																								
<p>消費者物価</p>	<p>(9月) このところ上昇テンポが鈍化している。</p> <p>(8月) このところ上昇テンポが鈍化している。</p>	<p>消費者物価の推移</p>																								
<p>海外経済</p>	<p>(9月) 世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、通商問題の動向、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p> <p>(8月) 世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、通商問題の動向、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p>																									

[月例経済報告：内閣府](#)

● 景気動向指数（平成30年7月・改訂値）

平成30年7月のCI一致指数（改訂値）は前月より0.8ポイント低い116.1ポイントとなり、3か月連続の下降となった。3か月後方移動平均は前月より0.47ポイント低い116.7ポイントとなり、3か月ぶりの下降となった。7か月後方移動平均は前月より0.41ポイント低い116.4ポイントとなり、2か月連続の下降となった。

CI先行指数は前月より0.7ポイント低い103.9ポイント、遅行指数は前月より0.6ポイント低い117.5ポイントとなった。

景気の基調判断（CI一致指数）は、「改善を示している」を据え置いた。

※CIの数値は、一致・先行・遅行指数とも全期間で遡及改訂。（前月との比較は、遡及改訂後の数値による）



[景気動向指数：内閣府](#)